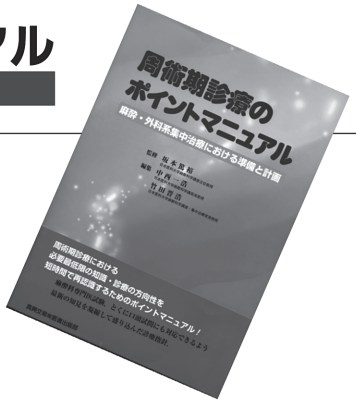
監修 坂本篤裕
編集 中西一浩／竹田晋浩

# 周術期診療のポイントマニュアル

## 麻酔・外科系集中治療における準備と計画




・真興交易(株)医書出版部
・2008年12月　第1版第1刷発行
・A 4判/460頁/並製本
・定価（本体11,000円＋税）
・ISBN 978-4-88003-820-9

本書は，周術期診療に必要な病態知識，管理方針を，要点の抽出と応用という形にまとめた書物である．最初に麻酔のみならず多くの疾患，手術，術後管理の知見を的確な視点から整理し，出版の労をとられた監修者に敬意を表したい．本書の特徴は，第1にその執筆陣の臨床経験の豊富さにある．日本医科大学麻酔科学講座の執筆者が過半を占めており，その国内有数の手術件数実績から，いずれの面々も，手術室，ICUで日々昼夜を問わず臨床に情熱を注いでいることが容易に想像でき，従来の書籍にはない，経験で磨かれた技術と判断が十分に感じ取れる．第2に各章いずれの内容も見開き数ページに集約されており，最重要ポイントにしぼった内容の濃い構成となっている．また，参考文献のほとんどが2000年以降の比較的新しいものを引用しており，正に最新の知見といえる．

第1章「術前合併症の評価と対策」は，臓器別の代表的合併症について，術前までの管理法，術中，術後に影響する問題点を整理し，表やフローチャートを用いたわかりやすい説明がなされている．本章が本マニュアルの主要部分であり，研修医，若手麻酔科医のみならず，上級医でも麻酔計画に際し，大いに参考にすることができる．第2章「特殊なモニタリング・ME機器」は，多様な医療機器を駆使する現代の周術期医療に同期して，機器の簡単な原理から測定データの解釈までが写真，図解により説明されている．血管エコー，神経エコーなどの新しい機器が網羅されているのが嬉しい．第3章「特殊な手術症例の周術期管理」は，各科別の術式の特徴から，特別な管理を要する病態を分析し，そのポイントが明記されている．症例の特殊性は見解が分かれるが，多くの施設で年に1～2例程度しか行われない手術や，心臓移植，肺移植など特定の施設でしか行われない手術に関するものまで，簡潔明瞭に記載されており，興味深く，かつ麻酔科医としての視野が広がると思われる．第4章「術中合併症の評価と対策」は，手術医療に限らず，危機管理として医師が常に身につけておくべき事項が鋭く指摘されている．日常遭遇するような状況が総括されており，医療安全対策の重要性を位置づけると共に，知識の充実だけでなく，実践がいかに重要であるかを示唆している．第5章「術後管理」は，術後疼痛，PONV，PDPHなど前章と比べ，亜急性期の合併症管理であるが，麻酔科医として常に悩まされる問題でもあり，解決のヒントとなる有益な情報が確認できる．最終章の第6章「外科系集中治療」は，集中治療，ICU管理に関する記述であるが，本書の中では1～5章までとは趣を異にし，語彙説明など記述的な部分がやや多く，集中治療という大きなテーマを限られたスペースで要約すべく苦労が伺える．従来からのさまざまな見解の確認のほか，新たな知見もいくつか紹介されており，集中治療専従医の不在によって，麻酔科がICU管理を行う施設などでは，若手医師の入門書的意義があると思われる（集中治療専門医には少々物足りないかもしれないが）．

本書は，周術期診療に必要な知識，診療の方向性を再認識できる書物として企画され，麻酔計画，周術期合併症管理，集中治療に関するエッセンスが満載である．また，麻酔科専門医試験（とくに口頭試問），学生，研修医教育のための参考資料にも応用でき，最新のエビデンスまでが凝縮された，われわれ麻酔科医にとって不可欠なマニュアルという位置づけができよう．

鈴木利保
（東海大学医学部医学科外科学系麻酔科）